

濃度はその1/10~1/3とされています。貝殻は意外に大きく、完全に成長すると殻長5cm，寿命約10年といわれています。殻の内面はうっすらと紫色をおびます。



2004年7月19日撮影。

上の写真は1ページのマシジミが採集された場所です。画面右下に見える小さな流れの底質に埋もれていました。殻長（画面では横の幅）24.5mmのまだ若い貝です。国分川に限らず，浦戸湾の他の流入河川にも生息しますが，2004年には鏡川の漁獲量が激減したようです。その原因は，長期にわたる漁獲量と環境要因のデータがないため，謎のままに終わりそうです。

本種の貝殻は，縄文時代の貝塚の貝の8~9割に達することがあります。6000年以上も昔から，本種は日本人にはなじみ深いタンパク源でした。水質汚染と埋め立てにより，資源量が減少しているのは全国的な傾向です。

むき蜆石山のさくら散りにけり 蕪村

2005年2月16日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。